

# 令和4年度事業報告

新型コロナウイルスとの共存も3年を経過しました。アフターコロナを見据えた新たな生活様式を模索しつつシニアが健康で意欲を持ち、その蓄積した経験や技術を活かして地域社会の支え手となることにより、市民の皆様、発注者の皆様から信頼され魅力あるセンターをめざして事業を進めてきました。

令和4年度は ◆安全就業の推進◆就業開拓と会員拡大◆中長期視野に立った財政・事務局運営◆派遣事業の推進 に重点を置き役職員が一体となり事業運営を進めてまいりました。

## 1. 安全就業の推進

「安全就業にゴール無し」 ツインブレード活用・刈払機安全講習受講が成果に  
「安全はすべてに優先する」を基本に、令和4年度も活動を展開しました。



特に、草刈時における刈払機の事故防止は、掛け声（意識）だけでは減少しない事実を真摯に受け止め事務局による就業計画の把握、危険予知の呼びかけ、物理的な対策や会員・担当職員の専門知識習得も合わせた活動の結果、刈払機の飛び石による物損事故は2件（昨年比▲7件）まで減少することが出来ました。

傷害・労災事故については、「コッソリでも病院へ」をことあるごとに呼びかけ、傷害事故は14件（昨年比+1件）、労災事故は2件（昨年比▲1件）という結果となりました。

「安全就業にゴールは無い」このことを肝に命じ今後も継続した取り組みをします。

安全就業の基本は、心身ともに健康な体であることが基本であり、互助会（鈴の音会）や、カーブスジャパン（フィットネスクラブ）とも連携した健康づくり活動を展開し多くの会員の皆様に参加をいただきました。 ※ツインブレード（2枚刃式刈払機）

### 【主な安全・健康イベント】

講習名（主催）	日程	会場	参加者数
刈払機安全講習（林災防）	4/15・5/13・1/13・2/22	「木の情報館」スマッキー	10名
松阪市高齢者 ドライバー・ドラレコ研修	10/8	松和自動車学校	3名
「カーブスジャパン」健康イベント	6/16・6/17	センター会議室	68名
刈払機メンテナンス講習	11/18	鈴の森公園	49名
事故班ゼロ災KYT研修	12/1・12/12・12/14	センター会議室	20名
安全ドライバー団体講習	3/14	セーフティプラザみえ	4名
健康ウォーキング （鈴の音会）	10/23・10/31・11/6 11/11・11/13・11/18	坂内川他、5コース	136名

## 2. 就業開拓と会員拡大の取り組み

### 社会の動きにアンテナを高くし、日常的な就業開拓活動を展開

正会員登録には就業が前提となる当センターにおいては、会員拡大と就業開拓は密接に関係しておりそれぞれ連動した活動が重要となります。

企業や事業所における雇用延長の動きは進んでいるものの、松阪地域における人手不足の状況は否めません。このことはシルバー就業機会のチャンスと受け止め、事業所経営者様との交流、新聞求人広告やハローワーク求人情報にも着目し事業所へのアプローチを試みるなど、日常的・連続的な活動として展開してまいりました。

令和4年度は、45社を超える事業所を訪問し、新たに15事業所、55名の就業を獲得、会員数は3月末時点で1,012人（前年比+27人）新規入会者も140人となりました。

特筆すべき点は女性会員数（461名）であり会員総数に占める割合は46%、このことは松阪地域に根付いている女性が活躍出来る文化・風土が松阪市シルバー人材センターも同様であり他センターに誇れる結果です。

## 3. 中長期視点に立った財政・事務局運営

### 「コロナを言い訳にしない」・過去にとらわれない発想で事業を推進

令和4年度請負契約金額は4億74百万円（前年比+25百万円）、公共事業は34%、民間企業は51%、一般家庭は15%となっています。配分金は4億10百万円（前年比+19百万円）となりました。

現状のシルバー人材センターに対する社会からの評価は様変わりをしています。

NPOをはじめとする競合事業体の台頭、受注から就業完了までのプロセスに対する発注者の期待値の変化など、シルバー人材センターは転換を迫られています。

このことをしっかり受け止め、月次決算検討会の実施により課題の顕在化と対策立案、契約・受注見込みの可視化などを行うと共に、次なる環境変化への備えとして、松阪市専門家派遣事業を活用し、事業運営や事務局業務の改善に着手する等、過去にとらわれない発想で事業を実践しました。

中期的な課題は、インボイス制度（消費税の適格請求書等保存方式）であり、具体対応策については三シ連・全シ協とも連携し検討をしておりますが、令和4年度は特定費用準備資金積立（インボイス対策財政安定化運営積立）を理事会の決議を経て実施しました。

#### ー松阪市専門家派遣事業の活用ー

前川 浩一 氏（税理士法人トータルサポート代表）：インボイス制度への対応について

足田 眞也 氏（ヒキタ経営情報事務所）：業務改善による顧客満足度の向上策

## 4. 派遣事業の推進

### 就業開拓を軸に、初の契約額1億円を目指し推進

派遣事業の推進にあたっては、三重県シルバー人材センター連合会の方針に従い、全シ協による指導・助言も仰ぎながら推進をしました。

具体的には、就業開拓活動と連動させ、松阪市、松阪商工会議所、ハローワークなどのご協力もいただき顧客開拓をすると共に、ホームページの活用、夕刊三重広告、市内各施設への広告パンフレットの設置なども積極的に行いました。

【令和4年度月別派遣事業実績表】

	派遣事業所数	就業実人員（人）	就業延日人員（人）	契約額（円）
4月	37	128	1,783	8,706,758
5月	36	114	1,653	8,336,516
6月	38	118	1,722	8,507,007
7月	38	119	1,709	8,414,918
8月	39	117	1,662	8,128,838
9月	40	117	1,645	7,875,637
10月	38	120	1,662	8,416,773
11月	39	119	1,647	8,166,271
12月	40	118	1,705	8,575,415
1月	38	118	1,602	8,105,512
2月	41	112	1,558	7,782,204
3月	43	112	1,681	8,494,511
合計	—	—	20,029	99,510,360

5. 普及啓発活動・補助事業の推進について

“実り多かった” みえ松阪マラソン”

普及啓発活動の一環として、毎年10月に実施していた清掃ボランティア活動を変更し、12月開催の第1回みえ松阪マラソンにボランティア参加することとしました。

県内唯一のフルマラソン、7,000名を超えるランナーの裏方（大会を支える立場）として歴史の1ページに足跡を残せた喜びは予想を超えたものがあり参加会員の皆さんから、感謝の言葉をたくさんいただきました。



会員同士の新たな出会い、栄えある第1回みえ松阪マラソンを支えられたこと、世界で活躍されているトップアランナーの走りを目の前で見ることが出来たこと、等々、実りの多かったボランティア参加となりました。

令和4年度のボランティア活動は下記の通りです。

月日	実施場所	活動内容	参加者数
10月2日	リバーサイド茶倉	香肌サイクリング大会案内係	7名
12月18日	松阪市内全域	第1回 みえ松阪マラソン	89名
10月1日 ～3月31日	特別養護老人ホーム さくらの郷	絵手紙の作成と展示	10名
10月1日 ～3月31日	特別養護老人ホーム さくらの郷	写真の展示	10名
3月14日	第三小学校	樹木の剪定	8名



### キャッチコピー・ロゴマーク活用で魅力度向上へ

シルバー人材センターに対する社会（全国的な傾向）からのイメージは依然として“魅力が無い”結果となっています。

松阪市シルバー人材センターはこのような背景を素直に受け止め、イメージアップに取り組んでおります。

令和4年度は、キャッチコピーやロゴを広告宣伝に活用したり、オリジナルグッズを製作し啓発活動に努めました。

まずは、形式的な取り組みから始めましたが、今後は役職員が率先した意識改革を図りながら、シルバー魅力度向上へ繋げていきます。

#### 【年度別入会説明会参加者、入会・退会者の推移】

	説明会参加者	入会者	退会者	年度末会員
平成30年度	275人	149人	130人	1,011人
令和1年度	206人	159人	144人	1,026人
令和2年度	187人	134人	172人	988人
令和3年度	196人	138人	141人	985人
令和4年度	204人	140人	113人	1,012人

## 6. 福祉・家事援助サービス等の推進について

### キラリと輝く“ちびっこはうす（未就学児一時預かり）”づくり

コロナ禍における事業として、令和4年度も松阪市から新型コロナワクチン接種会場における託児業務や、小学校での消毒作業の受託を継続することが出来ました。

松阪市は「未来に投資」する子育て支援策を打ち出しています。

松阪市シルバー人材センターとしてもこの政策をより実行化するため、松阪市と連携し活動を進めてきました。

“ちびっこはうす”運営にあたっては、会員（保育士・サポーター）さんとも、意見を交わしながら、利用者様に安全で親しまれる施設運営に努めました。

利用料金お支払い時のPayPayご利用、LINEお友だち登録や、こだわりを持った遊具やえほんを揃えることが出来ました。

また、個人や高齢者家庭からの福祉家事援助サービスの受注も順調に増加しています。このニーズは今後も続くと思われ、事業成長のために講習会や研修会にも三重県シルバー人材センター連合会と連携しながら積極的に参加していきます。



※三シ連：三重県シルバー人材センター連合会、全シ協：全国シルバー人材センター事業協会